

平成20年度第2回石狩市浜益区地域協議会議事録

日 時：平成20年6月27日（金） 13：30～15：00

場 所：浜益支所 2階庁議室

資 料：会議次第

資料1：地域自治区振興事業調書

資料2：地域自治区振興事業について「今後の取り組み」

検討事項：地域自治区振興事業の評価について

地域協議会だより<VOL.26>、<VOL.27>

=会議次第=

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報 告
 - 1) 新たな委員の紹介
 - 2) 浜益地区の活性化を考える連携会議について
- 4 議 事
 - 1) 地域自治区振興事業について
 - ・これまで取り組んだ事業の評価
 - ・今後の取り組み
- 5 そ の 他
- 6 閉 会

出席者：次のとおり

委 員			職 員		
役 職	氏 名	出欠	所 属	氏 名	
会 長	神田 一昭		(支所) 区長	宮田 勉	
副会長	岸本 教範		(支所) 部長	工藤 泰雄	
委 員	羽山 勇一		(支所) 地域振興課長	赤間 聖司	
委 員	河上 干城		(支所) 産業振興課長	渡辺 隆之	
委 員	北村 文子		(支所) 市民生活課保健福祉担当課長兼はまます保育園長	古川 和志	
委 員	中村 東伍		(教育委員会) 浜益生涯学習課長	新井 春生	
委 員	菊地 政雄		(浜益国民健康保険診療所) 庶務課長	木村 新吾	
委 員	渡辺 千秋		(教育委員会) 浜益生涯学習課生涯学習担当主査	畠中 伸久	
委 員	白井かの子		(支所) 地域振興課地域振興・広報広聴担当主査	尾崎 巧	
委 員	石橋ミツ子		(支所) 地域振興課地域振興・広報広聴担当主査	小島 工	
委 員	三浦 信悦				
委 員	田中 照子				
委 員	佐々木茂雄				
委 員	木村 武彦				
委 員	寺山 広司				

傍聴人：0人

1 開 会

【支所：赤間課長】

平成20年度第2回浜益区地域協議会を開催します。本日は三浦委員、岸本委員、河上委員、菊地委

員、木村委員、佐々木委員、石橋委員におかれましては、所用のため欠席する旨の連絡をいただいております。本会は協議会会則第9条第2項の項目により、出席委員が過半数に達しておりますので、成立しております。

本日の会議終了時間は概ね午後3時を予定しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。それでは神田会長よりご挨拶お願ひいたします。

2 あいさつ

【神田会長】

皆さん、こんにちは。何かとお忙しい中地域協議会に出席いただきましてありがとうございます。本日第2回の浜益区地域協議会となりますけれど、予定されている案件が事務局より示されておりますけれど、3時終了を予定しているということで、短時間ながら有意義な会議にしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【支所：赤間課長】

ありがとうございます。続きまして区長よりご挨拶申し上げます。

【支所：宮田区長】

皆さんこんにちは。本年度第2回目の地域協議会ということで、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様方におかれましては大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。また、日ごろから市、区が進めております事業に対しまして、ご協力をいただいておりますことに合わせてお礼を申し上げたいと思ひます。今日は、後ほどご紹介をいたしますが、浜婦連から新たな委員として、白井かの子さんのご出席をいただいております。地域協議会は15名の委員で構成されておりますが、地域づくりや住民との協同、さらに地域意見のとりまとめなど、区にとって大変重要な役割を担っていただいているところでございます。白井さんにおかれましては大変な仕事でございますが、健康に留意いただきまして、浜益区の振興・発展のため力を貸していただきたいと、このように考えております。

本日は神田会長よりお話ありましたとおり、前回までの地域協議会で話し合われていた、区活性化に向けた新しい、異業種の方々に構成された組織の立ち上げの経過を報告させていただくほかに、合併から3年の間に取り組んでまいりました地域振興事業の評価と、新年度に向けた新たな振興事業の検討を始めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

3 報 告

【支所：赤間課長】

これより協議事項に移りますので、会長に議長をお願ひいたします。

【神田会長】

それでは進行を努めてまいりますので、ご協力をお願ひします。初めに事務局より説明があります。

【支所：赤間課長】

先程区長のご挨拶の中でも紹介ありましたが、新たに浜益区地域協議会の委員に浜益自治婦人連絡協議会から白井かの子さんが選出されておりますのでご紹介いたします。

【白井委員】

皆さんこんにちは。浜益に嫁いってから24年が経とうとして、ようやくひと段落して、ここ2～3年浜益という地域に目が向いてきたところです。ただ委員としてはまだなにもわかりませんので、皆さんご指導お願ひします。

【神田会長】

次に、浜益区活性化を考える連携会議について報告をお願いします。

【支所：尾崎主査】

先般からこの地域協議会で、旧適沢コミセンの活用について協議してまいりましたけれど、その中で新たな団体、組織を作って協議していこうということで、当協議会からも5名の委員を選出しておりますが、6月9日に各産業団体の事務局の方に集まっていたいて、新たな団体を作りたいということの説明して、それぞれの団体から委員を出していただくということで、去る6月19日に1回目の会議を持ちました。

その中で、今の段階で農協から2名、漁協から2名、商工会から1名、観光協会から2名、当協議会から5名と、スタート段階では12名の委員で会議を持ちました。19日は会の設置そのものについてお諮りし、皆さんから賛同をいただき確認したところです。逐次集まって会議を開いていこうということで、今回は7月8日を予定してその場は解散しましたが、団体名、規約、構成メンバーにつきましては、これから集まって決めていくということで、団体を組織するという確認の部分で終了しております。今後は実際にその新しい団体で、どういう形で取り組んでいくのかという話し合いになるかと思えます。

それと当協議会で話し合われていた旧適沢コミセンにつきましては、新たな団体の中での議題に上るかというのは、話し合いの中で決めていくことになるかと思えますが、すぐにはそちらには行かないのかという部分もあるものですから、旧適沢コミセンにだけスポットを当てたものではなく、地区の活性化をどう図っていくかということ産業団体の連携のもと、地域協議会とも連携しながら進めていきたいと思いますというのでスタートしましたので、その旨だけ報告させていただきます。

【神田会長】

ただいま事務局より説明ありましたが、何か質問ございましたらお受けしたいと思います。

【各委員】

なし。

4 議 事

【神田会長】

議事を進めます、浜益区自治振興事業についてであります、これまでに取り組まれた事業の評価を地域協議会で行うこととなっておりますことから、配付されております資料1の調書により説明を受けてから協議を進めてまいります。事務局より説明させていただきます。

【支所：尾崎主査】

資料1をご覧くださいと思います。カレンダー製作でございますが、事業内容についてご説明いたします。事業費について、すでに終わっている部分で平成18年度分が496,650円です。平成18年度分実績につきましては、平成19年度分のカレンダーになります。ですから平成19年度分の527,835円は今使っているカレンダーということですね。それと平成20年度の予定としては、19年度と同額ということで、来年の4月に発行する分の製作予定額ということですよ。

財源内訳としましては、3ヵ年とも市の補助2分の1以内、それぞれ240,000円を受けています。残りは自己負担ということになっておりますけれど、主な内訳は企業からの広告料とこれまでの繰越金を充てております。

事業内容は皆さんご存知かと思いますが、区内における学校行事、検診等のお知らせ、今年からバスの時刻表も掲載しております。他に公共施設のお知らせ等、それと各自治会をお願いして懐かしい写真

を用意して、それらを混ぜながら製作して全戸に配付しているものです。それと各公共施設に掲示しております。

実施方法として、市の役割、実行委員会の役割と区分しているんですけど、市としては行事などの情報提供、企画編集委員会への支援、各種資料の収集支援、それと製作費の助成を市のほうで行っております。一方、実行委員会としては実行委員会の編成と、事務局が商工会、観光協会、支所関係課の職員をもって構成しており、その中で、企画・編集会議、資料収集、印刷発注、各世帯へ配付と、役割分担をしながら事業を進めております。

この事業の効果につきましては皆さんよくご存知かと思いますが、各種行事や暮らしに役立つ情報、共通の情報を持ちながら区民の便利帳的なカレンダーということで、全世帯で利用されていることで、地域の一体感が育まれ、地域コミュニティの一層の推進による地域づくりが図られているということ、それと情報が共有されていることから、行政への関心、意識や連帯感の高揚が図られていること、それと各行事が細かく掲載されていることから、例えば各自治会等行事もそれを見ながら計画するといったことも聞いております。それと昔スタートしたときに懐かしい写真を掲載したものですから、それがなければ寂しいだろうということで、写真の収集も各自治会で協力して、自治会員に声をかけていただいてカレンダーに掲載しておりますので、区民の方々からもご協力いただいているカレンダーです。

その他特記事項ですが、18年度が全32ページ、19年度から34ページと2ページ増えているのがバスの時刻表を載せておりますので、その分増えています。印刷部数については、毎年1,100部です。

また、成果指標につきましては目標を設定する上での数字ですけど、各世帯に配布していますが、それが徐々に区民の意識も高まって、1軒の家に配っただけではなく、家族全員でカレンダーを見ながらスケジュールを組んだりだとか、家庭内での話題に及ぶことを考えると、むしろ成果としては世帯というより区民全員に浸透しているのかなというイメージ、そういう目標をもって製作しております。

備考欄ですが、平成17年10月に合併ですが、実は平成17年度の製作予算は浜益村で予算を組んでいませんでした。合併協議の中ではカレンダーは廃止という案でした、なぜかという浜益はいいのですが、厚田・石狩地区には学校が沢山あり行事が網羅しきれないという部分があって、カレンダーという形での配付は無理だということで、合併協議では廃止になりました。実は17年の予算がないときに、18年の振興事業でカレンダー作りましょうというときに、17年度でカレンダーがないから1年空いてしまうなという話が出たんですが、1年空けることによって意識が薄れてしまうと、皆必要だというのは変わらないということで、自治会連合会に相談したところ、自分たちが負担してもいいから、なんとか間を空けないでやってくれないかということで、17年度分、18年のカレンダーは自治会に半分負担してもらって、残りをこの年から初めて企業広告をお願いして、寄付金をお願いしてということで、17年度予算で作った18年のカレンダーなんですけど、そういう経緯もあって、カレンダーについては各区民から必要とされている事業かなと思い、まとめてみました。以上です。

【教育委員会：新井課長】

私のほうから、地域自治区振興事業調書、資料1-2により説明させていただきます。合併後の平成18年度より記載しております。浜益区民スポーツフェスティバル事業、これは夏、冬開催しております。

事業費ですが、18年度実績で107,835円、内訳は市補助金53,000円、基金を全額充当しています。自己負担金が54,835円。続きまして19年度実績が106,596円、基金を充当しています。参加者負担金が53,596円です。20年度予定でございますが106,000円、市

補助金が53,000円、全額基金充当、参加者負担金が53,000円です。

事業の概要ですが、夏季の競技内容がジャンケン大会、ちびっ子競走、南北対抗玉入れ競争、南北対抗綱引き、南北対抗リレー、ジャンボ宝くじです。続きまして冬季の競技内容ですが、スキー大会、そりりレー、スノーフラッグス、五色綱引き、みかん拾い、ジャンボ宝くじです。昼食として浜婦連の方々のボランティアによる豚汁の提供をいただいているところです。

実施方法でございますが、私ども生涯学習課で、市の補助金の関係で事務局を担当しているところでございます。実行委員会を組織しておりまして、体育協会、体育指導委員、浜益生涯学習課、区内の社会教育団体13団体で構成しているところです。実行委員会は年4回、実施前、夏季、冬季、実施後と開催しております。

事業効果ですが、夏冬のスポーツフェスティバルを通じまして、浜益区民の交流と運動不足解消に貢献することができたところでございます。夏季については、幼児から高齢者までが交流しあう場所となり、異なる年齢の交流の場となり、また会場である浜益中学校については、物品貸借や当日の運営スタッフ、教員などを含めまして学社連携という観点からも効果のある事業と考えられているところでございます。

その他特記事項でございますが、これは平成20年度については、浜益スキー場の廃止により冬季間の会場の変更、さらには競技種目の検討が必要となります。また今年度より、市民の健康をスポーツも含めて一体的に管理するスポーツ健康課、これは本庁でございますが、新設されたことから、より多くの区民が参加できるよう内容等の充実を図る必要があると考えているところでございます。

成果の指標でございますが、資料には夏季延べ262人と書いてありますが、これは100人ということで、同じく冬季も100人ということで、これにつきましては成果指標、これは目標の設定でございまして、このように訂正願いたいと思います。目標年次は平成20年度としております。

進捗状況でございますが、18年度実績で夏季が96人、冬季が99人の参加者、19年度が夏季86人、冬季が115人、20年度が先程成果の指標で申し上げたとおり、夏、冬100名を目標としているところでございます。

参加者負担金は大人が300円、小中学生が200円となっております。以上でございます。

【支所：渡辺課長】

私のほうから、資料1-3の和牛生産推進事業について説明いたします。この事業は18年度単年の事業でありまして、浜益地域の和牛、黒毛和牛の飼育技術の確立、ブランド化の推進を目指しまして和牛生産改良組合、11戸ありますが、農家個々の経営の分析を行っております。

事業の内容ですが、浜益区の和牛生産振興事業における支援調査業務としまして、社団法人北海道酪農畜産協会に調査を委託しまして、調査の内容ですが、経営概要調査、経済分析、生産技術分析と、17年度の各農家の実績に基づきまして、調査を実施しまして結果に基づき、今後の浜益地区における和牛生産技術の向上と和牛振興にかかる今後の検討ということで、問題点や改善等について報告書にまとめていただいて、それに基づいて改良組合の方々に集まっていたき、委託した畜産協会から説明していただいたところです。

そのほかにも先進地視察ということで、和牛先進地であります平取町の農家を視察いたしまして、繁殖、管理、肥育等の視察等、研修してきております。

事業効果といたしまして、経営概要調査や経済分析が各飼育農家の経営基盤の強化に資するものとなっております。他にも生産技術分析や改善指導により、農家個々の問題点が明らかになり、そういった部分が問題解決に当てられておりますことから、地域全体での肥育管理など、生産意欲の向上が図られ

ているところでございます。

また備考欄に記載しておりますが、時を同じくしてこの年のホクレン主催の北海道枝肉共励会におきまして、湯浅春男さんが肥育された黒毛和牛が最優秀賞に輝いています。私からは以上です。

【神田会長】

ただいま説明されました各事業のうち、継続事業として取り組まれている区民カレンダー製作と区民スポーツフェスティバル事業について、地域協議会で事業の評価を行い、行政側においてその結果を検討し、再度事業を継続するか判断されることとなっております。

まず区民カレンダー作成について、成果等について協議してまいりますので、ご意見いただきたいと思えます。

【支所：赤間課長】

カレンダーを製作したことによって、地域にどのように寄与したとか、あるいは地域の一体感が持たれるとか、皆さんの意見を出し合って、評価していただきたいと思えます。

【宮田区長】

毎日活用されていると思えますが、このカレンダーについてそれぞれどのように感じているかというところから話してもらってもいいのですが。

【田中委員】

生活と一体化しちゃってね、生活の一部といってもいいかしらね。ちょっとメモしたり、印刷したものがあると挟んでおいたり、私としてはこのまま続けられるものなら続けてほしいと思えますが。

【神田会長】

他にありませんか？

【北村委員】

地区の行事がわかるのがいいですね。

【白井委員】

主婦の立場で言わせていただくと、ゴミの情報が出ているのがとてもいいですし、温泉なんかでもお年寄りの話では、出て行くことがないものですから、今月どういう行事があるだとか、今頃だったよねという確認に非常に役に立っているのです、なくなると大変困るという話をいつも聞いております。

【神田会長】

もう生活の一部になっていますね。他にありませんか？概ね区民カレンダーについては好評なようですけれど。

【支所：赤間課長】

私どものほうで、皆さんから出た意見を整理して、継続するかしないかという検討をしてまいりたいのですが、あくまでも地域協議会委員の皆様の意見を出していただいたうえで整理したいと。ただ区民カレンダーの場合、成果指標が数字で表せないものですから、ですが今説明したとおり区民全員に利用されているということであれば、成果としてはあるのかなと。

【北村委員】

だんだん予算なくなったら、買ってでもね、私は。

【白井委員】

それはお年寄りも言っていますね。自己負担してもいいので、いよいよお金がないのなら、一人何円という形で出してもいいので続けてほしいという意見がほとんどですね。

【中村委員】

必要なものだと思いますけどね。

【神田会長】

それでは、カレンダー製作について皆さんの意見は、生活の一部として溶け込んでいるという認識をしたいと思います。今後もこれは継続してやってもらいたいということで取りまとめたと思いますが、いかがでしょうか。

【各委員】

はい。

【神田会長】

それでは地域協議会としては、そのように取りまとめたと思います。事務局のほうで後日成果等について整理していただきたいと思います。

次に浜益区民スポーツフェスティバル事業について、ご意見いただきたいと思います。検討事項のところで、スポーツフェスティバル事業は健康増進が図られたか？地域住民の交流が図られたか？とありますが、こういう点を考慮して判断していただきたいと思います。いかがでしょうか？

【支所：赤間課長】

なかなかスポーツフェスティバル事業については、委員の皆さん直接参加されないなかで、状況がわからないということもあろうかと思いますが、議論するのが難しいというのがあるんでしょうけど、合併前はいわゆる村民運動会、スキー大会と進めてきた中で、合併後このフェスティバルという形で夏と冬を行ってきたということで、今年度3年目を迎えるわけですが、ご承知のとおり、夏は運動会という形で可能ですけれど、いままでスキー場で冬のスポーツをやっておりましてけれど、今年度はスキー場が廃止になったということで、学校グラウンドを活用して冬のスポーツを行うと、冬の子供達達の健康増進を図るということで、そういう取り組みで進めております。

【神田会長】

確かにこれは、住民も年に夏冬ということで区民一帯となってスポーツをするということは趣旨から言えばいいことなただけけれども、今年スキー大会に行ってみたら、やはり子どもと一緒に保護者の方も来たり、楽しんでおりましたけれど、今度はスキー場がなくなるということで、冬季は種目も工夫しなければ駄目ですね。

【北村委員】

学校グラウンドとなれば、中学校？小学校？そこはまだ検討していないの？

【教育委員会：畠中主査】

一応、浜益中学校を考えています。

【支所：赤間課長】

まだ実行委員会を開催していないから具体的ではないですが。

【田中委員】

今度違った種目で。

【北村委員】

雪像づくりでも皆でやって、出来上がったのを見て、皆で参加してね。

【田中委員】

雪像なら私達でも参加できるよね。スキーは滑られないので。

【北村委員】

小さいもので、大きいものじゃなくて。

【田中委員】

小さい子供からおばあちゃんまで、皆参加できるもので。

【北村委員】

おもしろい雪だるまでもね。各地区ごとに。

【神田会長】

それは会場も違うことになりますから、実行委員会で内容を検討すると思いますが、とにかく地域協議会としては年に2回の夏冬スポーツフェスティバルを開催したほうがいいかどうかということで検討してみたいと思いますがいかがでしょう。

【田中委員】

1年止めちゃったら、ずっと止めちゃいますよね。もしできるのでしたらいろんな形があると思いますので、浜益らしい競技がなにかあると思うんですが、私は、子ども達も少ないですが、続けてほしいなと思います。

【神田会長】

他にありませんか？今のご意見は継続して進めていただきたいという意見ですが、そういう方向でまとめていいですか。

【北村委員】

子どもがいる方は、そういう事業があればいいと思うし、老人だけだと大変だけど。

【田中委員】

保育所、小学校、中学校、高校と、子ども達がいるわけですよね。

【渡辺委員】

私もいろんな団体に入っていて、団体の役として出ていたこともありますが、役を降りた時点から出たことはありません。やはり役をやっていたときはしょうがないから出るかという感じで出ていたんですけど、終わったとたんに荷が降りたような感じで、それから行かなくなりました。健康づくりは皆さん個々に自らそれぞれの種目でやっていると思いますね。前から思っていたんですが、無理にやっているような雰囲気もないではない。役員さんのためのフェスティバルというか、それも役員だからとう感じ。川下でやるんだったら近くの人達は行くけど、遠くの人達はまず行かない。そこまでやっていいのかなという疑問がありますね。だから来年もし役当たったらいくけど、役当たらなかつたら行かないと思います。

【羽山委員】

それは渡辺さんでなくても、ほとんどそういうものなんだ。やるのが悪いのではなくて、効果が上がるならいいが、準備をするのにかなりの人達が手間隙かけて、時間かけて、その成果が本当によかったなというのがないと思う。子どもは少ない、増えるのは高齢者だけだから。

【田中委員】

私は孫が参加したので行ったけど、確かに子どもも少なくて役員さんも大変でしょうけど、何もやらなかったらどうかなあと。

【羽山委員】

孫や子どもがいる家庭はいくけど。喜ぶ顔が見たくて。

【田中委員】

そういう方々が何人かでもいて、経験するということはすごく大事なことだと思う。やはり今少子化なので子どもが自由に発想できることとか、運動できるところがどんどん減らされている状態で、スキ

一場もなくなる、フェスティバルもなくなるでは、冬に子ども達はどのようにするのかと。

【北村委員】

今何をやりたくても、例えば事故あったら誰が責任持つかと。そんなこと考えていたら何もできないんだわ。だけど今の考えはそうなんだわ。やりたいと思ってもやれないし。

【神田会長】

そこで、区民の要望があるかどうか、また止めるとすればそれに変わる類似事業があるかどうかということで、話を進めていきたいと思います。

【羽山委員】

さくらんぼ狩りはやってなかったの？ 保育園はやって、小学校以上はやらないのかな？

【支所：尾崎主査】

それは学年行事として、父母と先生と子どもと相談して何かをやっています。高学年になったら黄金山に登ったり、自分たちでメニューを考えて決めるんですね。

【羽山委員】

問題は、これに代わる親子で参加できるものがあれば、フェスティバルでなくてもいいということだ。父兄が参加できるような行事であれば、さくらんぼ狩りも結構盛会にやっているんでしょう？

【支所：古川課長】

3クラスありますが、それぞれさくらんぼ狩りに行ったり、動物園や水族館に行ったりしています。

【羽山委員】

それに父兄も参加できるような仕組みを作れば。

【神田会長】

整理の仕方として、さくらんぼ狩りや社会見学的なもの、それらを一体化するか、それともやはりスポーツはスポーツだと切り離して考えるか、その辺を整理しなければ。

【宮田区長】

夏のフェスティバルに行ったことがあります、ここに8～90人の参加者とありますが、そのうちスタッフが20人程度になると思うんですよ。そうすると会場がすごく寂しく感じて、この程度の参加者で継続していいのかと疑問を持つ人はいると思うんです。あと参加者が固定化されてしまっていることがありますね。昔であれば南北に分かれてソフトボール大会をやったりだとか、盛大でしたけれど、最近は5～60人の参加者しかいないというのが実感でしたね。

【羽山委員】

これだけの人口の中で半分高齢者で、高齢者の集まりでもどこの集落でもパラパラだから。

【白井委員】

冬のフェスティバルは、スキー少年団がかなり主になってやっていたので、そういう中心になる団体がないと続かないですよ。

【羽山委員】

今日結論出さなければ駄目なの？

【支所：赤間課長】

今日の協議会である程度の評価をしてもらって、出た意見を私どもでまとめて最終的な判断をするということになるかと思います。

【羽山委員】

スキー場もなくなれば、よっぽど喜んで参加してもらおうようなことを考えなければ。

【神田会長】

考えるうえで、スポーツフェスティバルの夏と冬とを別々に考えてください。2つ一緒にではなくて。

【支所：赤間課長】

もし今日結論でなければ、7月に地域協議会が開催できるのであれば、そこまで延ばしてもいいのかなと。ただ8月には結論出して、報告しなければならないので、遅くても7月の地域協議会ですね。

【神田会長】

今日このように問題を提起しておいて、次に結論を出す方法もありますし。

【田中委員】

参加していないからわからないわ。

【羽山委員】

冬季だって、もし学校のグラウンドで何かやるにしてもその内容が良かったら、やったほうがいいとなるし、漠然として、スキー場はなくなった、なにやるかわからなくて、やったほうがいいとか悪いとかは、どういうことをやるのかもわからないんだから。

【田中委員】

それは実行委員会を立ち上げてから決めることだから。私たちは、やるかやらないかを決めればいい事なんでしょ。

【支所：赤間課長】

やるかやらないかということではなくて、評価はどうかということですね。

【田中委員】

年々参加する人数は少なくなっているんでしょう？

【支所：渡辺課長】

合併前、村民運動会やっていたときですけど、若干参加人数が少なくなってきたりまして、村としてやるのは最後になるんじゃないかと。合併すると市ひとつになって、市のスポーツフェスティバルに参加するような形になるんじゃないかと。平成17年度については250名程度、その前の年は150名程度でした。ですが、振興基金を使うということで、自己負担をしなければならないということで実行委員会でもかなり議論されたんですが、自分の健康づくり、楽しむためには多少の負担も必要じゃないかという考えで行ったんですが、その辺をどこまで参加者が理解してくれるかということで、子どもと親だけの参加ということではなくて、浜益区民の子どもからお年寄りまで、いろいろな年代の人たちが、自分たちがお金を払ってもいいから、そこへ行って楽しんでという気持ちで参加してもらえばいいなと。なかなか、今までは村がまる抱えでやってきたものですから、その部分ではネックになって。それで、17年度が最後じゃないかということで集まって焼肉を提供したものですから、30万程度の経費で個人負担はなかったものですから、それなりの参加者はあったんですけども、やはり負担があるようになると100名程度でした。

【神田会長】

老人の人たちがやっている生きがいくり学園なんかと一緒にやってみてはどうだろう？

【支所：赤間課長】

生きがいくり学園は、開校式がスポーツ大会やって、閉校式が発表会的なもので、中に料理教室や社会見学などをやっていますね。

【北村委員】

難しいね。

【宮田区長】

高齢者の人たちは、ゲートボールやパークゴルフだとか、それぞれ自分の得意なスポーツを見つけてやっている人も多いですね。ですからこういった運動会的なものは希望していないのかなという感じはします。

【田中委員】

体力いるから。

【羽山委員】

高齢者だって、10年前は結構集まっていたと思う。今じゃどこの自治会だっていくら声かけても集まるのは微々たるものだな。

【北村委員】

老人クラブも人入らないね。

【羽山委員】

どこの老人クラブも、入らないし、入っても出てこないし。

【支所：赤間課長】

例えば、スポーツフェスティバルは区民の参加が少ないのであれば、それに変わる何かがないか、あるいは参加を増やすような方法が何かないかとか。

【羽山委員】

もう少し熱が入っていれば、夏だけでも盛大にやれば、2回やらなくても、みなが喜ぶのであれば2回分の予算を1回でやるのも。人口は減るし年はとるし、年々大変だ。

でも、たとえ少人数でも楽しみにしている子どもも親もいることは確かだし、それを切っているものかという気持ちもある。

【田中委員】

ひとつひとつ浜益の行事が減らしたり、なくなったりということになると、本当に活性できないままいってしまうのかなと。危機感を感じているものですから。継続できるものがあればなと感じているんです。

【羽山委員】

ともかく、当事者でないものをどう参加させるか、1割でも2割でも。

【田中委員】

そうやっていければ、今までやってきたスポーツフェスティバルも無駄にはならないというか、継続してきたからこんなことができた、つなげるようなものがあれば継続する可能性があるのでは。

【宮田区長】

今までどおりだと限界があると、形を変えて検討してはいかがでしょうかということですね。

【白井委員】

回数的にも、夏、冬と毎年やっていかなければならないのでしょうか？高齢者は生きがい作り学園で運動会やり、浜婦連は先日カローリング大会で盛り上がったんですけど、各団体でやっているものだから全体でやるのは、例えば今年夏やって、来年冬やってということもできると思うんですね。存続する方向で、形だとか内容だとかを検討していただきたいと思います。どうせ行っても去年と同じでしょという声も聞こえていますので。

【支所：赤間課長】

フェスティバルについていろいろな意見が出ましたので、私どものほうで意見をまとめまして、今日

結論出すのは難しいようですので、次回の協議会で確認してもらって、地域協議会としてはこういう意見だということを確認してもらうことでいかがでしょうか？ただ、遅くとも8月中には結論を出して、本庁に報告しなければならないものですから、そうすると7月中に協議会を開催してもらわなければ間に合わないと思います。

【神田会長】

今事務局が説明した流れでいいでしょうか？

【各委員】

はい。

【神田会長】

それでは次に、今後の地域自治区振興事業の取り組みについて説明願います。

【支所：尾崎主査】

資料2に4事業が記載されています。これは第1期の委員の任期中に結論は出なかったんですけども、事業化できるものはないかということで、2期目に引き継いでいたものです。今の委員になってからもシートでお配りしていましたが、改めてここに掲載しました。これ以外にも来年からの事業化に向けて必要なものがあれば、予算要求に向けて検討していきたいということで、これまでやった評価と合わせて次の部分に目を向けていかなければと思い、今回提案させていただきました。

これについては今日意見聞いて、どうこうということではなくて、今までこのようなことがあって、今後検討が必要になってきますということで、情報提供的なものです。

【神田会長】

これは次回以降で検討して、ある程度結論を出さなければということですか？

【宮田区長】

がちがちの結論でなくて、この中で取り上げられるものがあればということです。

【神田会長】

ここに4本あるんですけど、新たな事業を付け加えたりということとは？

【支所：赤間課長】

新たな事業ということで、できれば次回までに、例えば地域資源を活用した特産品の開発や販路の拡大事業だとか、安心安全な地域づくりの推進、子育て、在宅福祉、健康づくりや、区の特色である高齢者対策に関する事業、あるいは地域の景観づくり、自然環境にやさしい体験事業、地域の歴史や文化、郷土芸能、これらを参考に、いろいろな事業を検討してもらって、ざっくばらんに意見交換した中で、できるようなら、21年度の事業化、予算化に向けていければということを考えています。

5 その他

【神田会長】

はい、他にありませんか？

【支所：赤間課長】

ありません。

【神田会長】

はい。それでは本日予定しておりました案件は全て終了いたします。

6 閉会

【神田会長】

それでは次回の日程について協議したいと思います。

【支所：赤間課長】

夏休み前がいいでしょうか？7月23日はどうですか？

【神田会長】

そうでしたら、7月23日で決めてよろしいですか？

【各委員】

はい。

【神田会長】

それでは7月23日、午後1時30分からということにします。よろしくお願いします。

以上をもちまして第2回地域協議会を閉会します。ご苦勞様でした。

平成20年7月23日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会
会長 神田 一 昭